

三角屋根 CB 造住宅のストック価値再考と持続可能な居住システムに関する研究

●研究担当：北方建築総合研究所 居住科学部居住科学グループ
環境科学部構法材料グループ

●共同研究機関：室蘭工業大学、北海道工業大学、北海道文教大学、札幌市立大学デザイン学部、(職業能力開発大学校、照井康穂建築設計事務所、Nd studio)

研究の背景・目的

北海道の住まい歴史の中で北海道住宅供給公社が昭和40～60年代にわたって全道の主要都市に1万2千戸に及ぶ建設供給を行ったブロック造の三角屋根住宅があります。この大量のブロック造三角屋根住宅のストックの価値を評価し、現代の居住者にとっても魅力ある住宅として活かしていくために、ブロック造三角屋根住宅の開発から供給、現在のストック等の実態を明らかにするとともに、ブロック造三角屋根住宅の魅力を活かした持続的な活用の可能性について検討します。

研究の概要・成果

今年度は主に三角屋根住宅の開発経緯と供給の実態について資料調査、関係者へのヒアリング、現地調査を行いました。

ブロック住宅の本格的推進は、昭和27年に建築学会「特殊コンクリート構造設計基準」公表、同年北海道ブロック指導所設立、北海道建材ブロック協会設立、昭和28年北海道防寒住宅建設等促進法、昭和29年北海道建築用ブロック品質保全条例制定、昭和30年北海道立寒地建築研究所設立など、この時期に北海道でブロック建築の開発、普及の下地ができました。

この時代は住宅不足の解消が政策課題であり、住宅供給公社では当時防火、防寒にすぐれたブロック造住宅による住宅団地の開発が大がかりに進められました。その過程で「居間中心型」プランが開発されていきました。供給された住宅には面積、アクセス方位などにより多数のバリエーションがつけられました。

建設から3,40年を経た今、現存するオリジナルのものは少なくなってきましたが今後の活用について検討する最後の機会となっています。

今後の展開

改修の課題、方法についての検討を加え、今後の活用の可能性を検討し将来に残していく手立てを探っていきます。

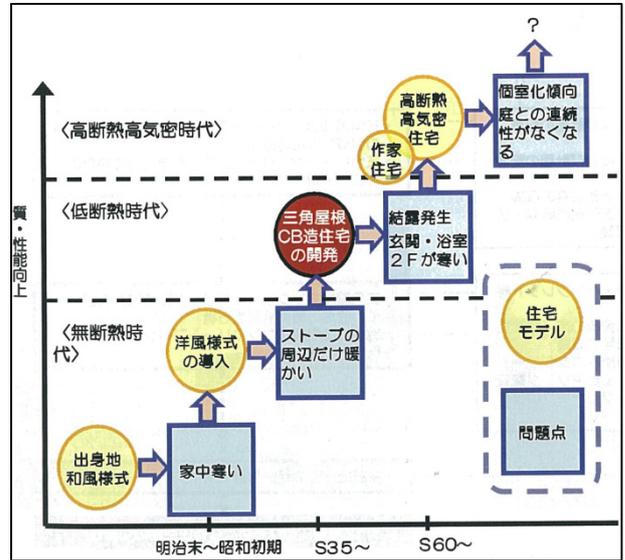


図1 北海道の住宅の開発における三角屋根CB造住宅の位置づけ

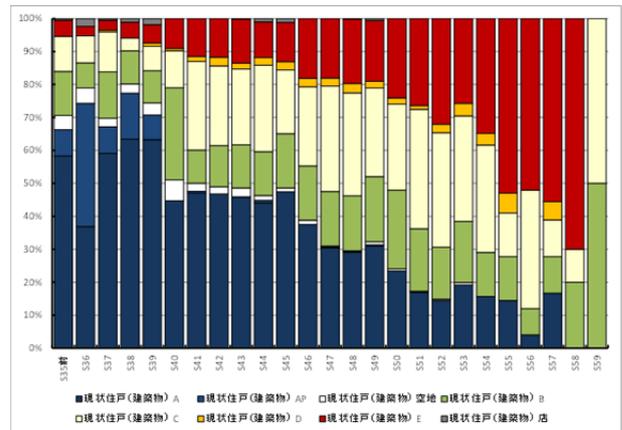


図2 供給時期別残存状況



写真 オリジナルの状況を残す三角屋根CB造住宅